

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.42 Winter 2019

土中から咲く星の花のような
ツチグリは、菌類、つまりキノコの
仲間です。袋の中に胞子が詰まっており、
押すとぽふっと飛び出します。
神秘的な姿です。



ツチグリ

今号のトピックス

- ・ 特集 海上の森は今 センター横の巣箱に棲みついたムササビの話・・・(2p)
- ・ この人 環境カウンセラー 廣永 輝彦 さん・・・・・・・(3p)
- ・ 森の仲間 キツネ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(4p)
- ・ お知らせ 飲食可能スペース新設！・・・・・・・・・・・・・・(4p)

ご存知ですか？「オコズナマキ」



▲オコズナマキの写真。左側に太陽が描かれ、
玄関口に向かってハシゴが描かれています

昨年12月23日に海上の森サテライトで正月準備が行われました。餅をつき、門松を立て、新年を迎えるための年中行事の1つです。

尾張東部の丘陵地域では、正月準備に「オコズナマキ」という特徴的な風習があります。これは新しいきれいな砂を玄関先に撒き、太陽やハシゴを描くものです。その役割は、東海から上る太陽と共に正月神（歳徳神）をお迎えするためのものと言われています。屋敷の大きさによって、描かれる太陽の大きさや形、数までもが変わると非常に面白い伝統文化です。こうした地域に根差した祭礼を後世に繋いでいくことも、里山文化を守っていく大きな意義です。

特集 海上の森はいま

センター横の巣箱に棲みついたムササビの話

第27回ミニセミナーから

ムササビの個体識別

ムササビの顔出し行動（「昼間、巣箱から顔を出すムササビの行動」のこと）を観察して延べ1100日ぐらいとなります。顔出し行動の観察からムササビの個体識別ができるようになったのは、平成26年5月頃、巣箱2から顔を出していた当時、「ムササビ母さん」と呼んでいた個体からです。この頃のムササビ母さんと共に巣箱から顔を出していたのが鼻に黒い点のあったムササビです。鼻に黒い点があったことから、「鼻黒」と呼んでいました。この鼻黒は、この頃生後2ヶ月ぐらいで、性別は分かりませんでした。

月日が流れて、平成30年6月7日にセンター横の巣箱で顔出し行動を観察。このセンター横の巣箱で顔出し行動を観察したのは平成29年4月25日以来。また、このムササビが平成26年5月頃、鼻黒と呼んでいたムササビと気付いたのは、第27回ミニセミナーの準備を進める中、当時の写真を見比べてのことです。そうした経緯からすると、個体識別ができているとは言えないかもしれません。とにかく、鼻黒は母親になり、センター横の巣箱で子育てをするムササビとなったわけです。そんなわけで、別の巣箱で鼻黒母さんを見かけたら、そっと見守ってくださいね！



▲平成30年6月14日撮影。センター横の巣箱から顔を出す鼻黒母さん（右）とその子ども（左）



▲顔を出したまま眠るムササビ



▲夜、枝の上を移動するムササビ

ムササビの撮影記録から

今回は約1か月間にわたってムササビ親子の昼・夜の様子を撮影しました。ビデオカメラは2台使いました。1台はハンディカメラ、もう1台はトレイルカメラで赤外線での暗視撮影をしました。

昼間は、巣箱から鼻黒母さんと子供の「鼻黒ちゃん」が顔を出したり、あくびをしたり、足を出したり、顔を出したまま寝てしまったり……色々な様子を撮影できました。ムササビは夜行性なので、昼間はちょっと「とぼけたような様子」でした。

夜間は、昼間とは違って変わって、ムササビ親子は俊敏に行動していました。巣箱から出て木の梢までスルスルと上がり、葉っぱをちぎって食べたり、枝の上に立ち上がって葉っぱをちぎったり、あっという間に飛翔したり。鼻黒ちゃんは、お母さんに付いて勉強中のようでした。

そんなムササビ親子も、七夕の時期に「お引越し」をしてしまいました。きっと今も海上の森のどこかで鼻黒母さんも鼻黒ちゃんも、元気に暮らしていることでしょう。

ミニセミナー第27回で放映したムササビの撮影記録「あっ！ムササビが飛んだ！！」は、あいち海上の森センター展示室奥のモニターにてご覧いただけます。ご覧になりたい方はスタッフまで。

この人 未知なるハエとの出会いを求めて

環境カウンセラー 廣永 輝彦 さん

毎月1回、海上の森をさまよう1日。これまで狙ってきたお目当ては今日も現れず…。でも、まあいいや！何よりたくさんのハエや昆虫、植物が見られたし！

私の“お目当て”とは、2015年に海上の森で外来種調査が実施した際、採集された新種と思われる昆虫です。これまで神奈川、京都など数ヶ所から報告されたマドホソアリスアブと呼ばれているものですが、いずれも1個体ずつ標本が得られているだけで、その生態は全くわかりません。ここ海上の森においても、たまたまトラップに入った1例のみ。

自己紹介が遅れ失礼いたしました。廣永輝彦と申します。昆虫の中でも特にハエに興味を持っておりまして、現在はアリスアブというハエの仲間の採集を目指しつつ、2016年3月から自身の勉強のために海上の森で昆虫の調査を行っています。

昆虫採集というと、夏休みをイメージされる方も多いと思いますが、私は真冬の12月から2月にかけても海上の森を歩いています。意外に思われる方もおられるかもしれませんが、冬のあいだは暑さが苦手なハエ



マドホソアリスアブ

が活動していますし、調査となると、どの時期にどんなハエがいて、いないのか現地を歩いて自分の目で確認する必要があります。

昆虫の中の大きなグループである“ハエ目”は、カやアブなども含み、日本で7600種以上が記録されています。みなさんはハエというと、とにかく嫌な存在と思われるかもしれませんが、しかし、一部の衛生害虫を除くと、多くの種は人間の活動とはあまり関わりのないところで静かに暮らしているため、まだまだ名前のついていない新種のハエが多数いると考えられています。実際、海上の森で調査をしていると、毎回のようによく見かけるハエに出会います。その一方で、昔は害虫とされていた種でも、人間の生活様式の変化から現在は身近な場所では見られなくなった種もあります。それぞれのハエが生活できる環境は確実に移り変わっているようです。

海上の森にはどんなハエがいて、どんな生活をしているか？ これからも通い続けることで、たくさんの小さいのちを見つめていきたいと思います。

《プロフィール》

1971年1月28日
福岡県北九州市生まれ
愛知県尾張旭市在住
双翅目談話会 会員

海上の森に毎月通い、
ハエを中心に昆虫や
植物を観察中。

ひろなが てるひこ
廣永 輝彦

センター職員随想リレー かたりべのひと言

「生態系サービス (ecosystem services)」という言葉があります。これは、自然生態系に由来する、人類に利益となるすべての機能のことを指します。環境意識が高まっている今となってはよく耳にする語ですが、なんだか違和感。日本語でサービスと聞くと「無償の奉仕」をついイメージしてしまうからでしょうか。どうやら英語の service には「公共性を持った役に立つもの」のニュアンスが含まれ、そのため「公益的機能」と訳せるようです。とはいえ、service の語源はラテン語で「奴隷」を意味する *servus* だそう。やはりすっきりしません。人は、自然からの恵みを受け取っているだけに過ぎないのではないかと……。もちろん、生態系サービスは経済学的な文脈で語られることが多いので、自然好きの感覚とズレることは仕方ないのかもしれませんが。

ちなみに「恵み」は英語で blessing、grace、mercy など、「神的存在からの恩恵」といった意味合いの強い語で表現されます。こうした観念的なものは科学全盛のこの時代にはそぐわず、また経済性を重視する世相は自然を「サービス」と捉えた方が便利なのでしょう。それは悪いことではありません。それでも、多様な生物に富む海上の森を歩くにつけて、もう少しじっくりくる言葉はないものか、考えてしまうのでした。(Y.S)

森のなかま ～キツネ～

キツネは、食肉目イヌ科の哺乳類です。日本には北海道のキタキツネと、本州・四国・九州・淡路島にいるホンドキツネの2亜種が分布しています。山地の森林に生息し、林縁部の農地などでネズミや鳥などの小動物を捕食しますが、秋にはアケビなどの果実類も食べます。

海上の森では、昼間、哺乳類に遭遇することはほとんどありません。しかし、平成30年の秋頃からセンター周辺でキツネの目撃情報が増えました。一見して、尾が細く、栄養状態の悪そうな個体です。



▲平成30年5月19日 自動カメラ撮影



▲平成30年11月13日 職員撮影

左の写真は、平成30年11月13日にセンター近くで撮影したものです。手前のクロネコはキツネを全く気にしていませんでした。この後、キツネは吉田川へ向かいました。

さて、このキツネに限らず、センターでは哺乳類の目撃情報を集めています。哺乳類を見かけたらセンターまで情報をお寄せください。

(参考文献『くらべてわかる哺乳類』山と溪谷社)

お知らせ 展示室に飲食可能スペースを新設！

これまで、あいち海上の森センター館内では原則として飲食禁止としておりましたが、このたび試験的に展示室奥に飲食可能スペースを新設しました。猛暑や酷暑で野外での休憩が難しいときにはぜひご利用ください。利用の際には、右下の注意事項にお気を付けください。来館者の皆さまが気持ちよく使えるよう、ご協力をお願いします。

また、センター入口玄関受付側の壁には海上の森のシンボルマークを解説したパネルなどを新設しました。隔月での更新を目指す企画展示以外でも、常設展示の内容を季節ごとに入れ替えたり、内容をグレードアップしたりしています。これからも展示室の内容の充実に努めていきますので、海上の森の散策の際にはぜひ展示室にも足を運んでいただけたら幸いです。



飲食可能スペース利用案内

- ・ゴミは各自で持ち帰ってください。
- ・来館者の皆さんで使っていただくスペースですので他の利用者に迷惑をかける行為はおやめください。
- ・飲食は緑線の区画内でのみ行うようお願いします。

編集後記

今年度は暖冬と言われていますが、その落差のためか寒波が訪れたときに体感で骨身にしみる寒さが強烈です。自然の外気に触れてこそ健康的な体が育つと言えども挫けそうになる気候です……。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)

発行日 平成31年2月14日

〒489-0857 瀬戸市吉野町 304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>



ホームページQRコード